

競技上の注意と確認事項

1 競技規則

本大会は、令和3年度（公財）日本ハンドボール協会競技規則によって行う。

2 競技会場

(1) 競技会場・コートのはさは、以下のとおりとする。

○昭和電工武道スポーツセンター（40m×20m：2面）

○大分県立大分鶴崎高等学校（40m×20m：1面）

○大分県立大分雄城台高等学校（38m×20m：1面）

(2) 別紙「会場使用上の注意」を遵守して行動する。

3 種別及び参加人数

参加人数は、役員4名以内・選手16名以内の合計20名以内とする。（役員が生徒の場合は、2名までとする。）

4 競技方法

競技方法は、各県1位代表および2位代表によるトーナメント方式とする。

5 参加資格

参加資格は、実施要項11－(1)～(9)のとおりとする。

臨時トレーナーについては、別に定める。※競技上の注意「16」参照

6 競技日程・時間

(1) 競技日程は、プログラムのとおりとする。

(2) 競技時間は、「前半30分－休憩10分－後半30分」とする。なお、同点の場合は、延長戦を行う。

【トス～第1延長（前半5分－休憩1分－後半5分）～トス～第2延長（同左）～7mTC（5名）】

なお、2位代表の交流戦は、「前半30分－休憩10分－後半30分」とし、延長戦を行わない。

(3) 競技時間の表示は、加算式の電光表示板を使用する。

(4) 競技終了やチームタイムアウトの合図は、ブザー・ホーン、または笛で行う。

(5) ①退場者の番号と入場時間の表示は、以下の通りとする。

「昭和電工武道スポーツセンター」「大分県立大分鶴崎高等学校」「大分県立大分雄城台高等学校」の全ての会場ともに「電光表示板」で表示する。

②入場の判断は、チームの責任である。記録席から合図することはなく、問いかけられても回答しない。

7 大会使用球

大会使用球は、（公財）日本ハンドボール協会検定球を使用する。

○男子・・・ミカサ（全日）

○女子・・・モルテン（全日）

8 トス・ユニホーム

(1) トスは、ユニホーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。

その際、チーム役員の服装（色）及び臨時トレーナーの有無についても確認する。※11(5), 16(1)

(2) ユニホームの確認は、すべての試合で「試合開始30分前」とし、記録席前で行う。その際、試合に着用する全ての種類のユニホームを持参する。調整がつかない場合は、チーム番号の大きいチームが変更する。

(3) ユニホームについては、下記のとおりとする。条件に満たない場合は当て布等で覆わなければならない。

その色はユニホームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。

①チームは、ユニホームとして「シャツ・ショートパンツ（またはゴールキーパーのズボン）・ソックス」の色をそれぞれ統一すること。ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのロゴなどは問わない。

②番号の大きさ（高さ）は、胸10cm以上・背20cm以上とする。

③基調色として、半分以上が同色でなければならない。例えば、左右上下対称色を用いたものは認めない。

④メーカーのロゴは、20cm²以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。

⑤背中に氏名等の文字表記をする場合は、大きさ（高さ）10cm以内とする。

⑥試合中にユニホームが破損したり、血液が付着したりして競技を続行できない場合は、別のユニホームに着替えなければならない。その場合は、異なる番号でも問題ない。交代地域にいる別のプレーヤー（番号）のユニホームと交換することも許される。

(4) ゴールキーパー

- ① チームで同色とする。
- ② コートプレーヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。
併せて、登録されたゴールキーパーと同色のユニホームを着用することは許される。
- ③ 一時的なゴールキーパーは、コートプレーヤーとして通常持っている番号のゴールキーパーシャツを着用するか、チームのゴールキーパーシャツと同じで透明な素材で覆われた穴があり、背番号と胸番号が見えるようにする。

(5) 身につけられるものについて

- ① 短パンツの下に着用するサイクリングパンツやウォームパンツ（アンダーウェア）は、短パンツの基調色か同色とし、チームで統一していれば着用できる。
- ② ユニホームの外にアンダーウェアが出る場合があっても、立っている状態で見えなければ正さなくてよい。
- ③ 長袖のアンダーシャツ・アーム（ロング）スリーブ等は、ユニホームに使用されている基調色と同色であれば着用できる。
- ④ ふくらはぎのコンプレッション（加圧）サポーターは、靴下と同色であれば着用できる。
- ⑤ 複数の部位を覆うサポーター等やメーカーのロゴが20cm²以上ものは着用を認められない。
- ⑥ 金具入り等、敵味方を問わず他の選手に危害を与えるものについては、その着用を認めない。
- ⑦ 眼鏡及びスポーツゴーグル等を使用する際には、固定バンドの装着を必要とする。
ただし、金属製のフレーム等については使用できない。
- ⑧ 詳細は、「JHA保護を目的とした装具」を参照すること。

(6) 眼鏡・スポーツゴーグル

眼鏡及びスポーツゴーグルを使用する際は、固定バンドの装着を必要とする。
ただし、金属製のフレーム等については使用できない

9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

- (1) 事前に所定の手続きを完了した登録証のあるチーム役員・選手のみが競技に参加・出場することができる。
- (2) 交代地域には、チーム責任者1名を含むチーム役員4名以内、選手16名以内の合計20名以内が入ることができる。
- (3) チーム役員・選手の変更については、2月1日（火）までに変更申請が完了したことで決定する。
事前に変更申請が完了した内容については、2月3日（木）各チームにメールで配信周知する。
- (4) ① トスの際には、TDに登録証を提出する。
提出不可、または不備（写真添付なし等）があった場合は、試合に出場・参加することはできない。
② TDが、試合前に交代地域にてチーム役員・選手及び登録証を確認する。
試合中は、TDが登録証を管理し、試合終了後にTDから両チーム代表者に返却される。
③ 失格したチーム役員・選手、または、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、その場で返却しない。
- (5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した「A・B・C・Dカード」を着用し、試合終了後に返却する。
チーム責任者は、「Aカード」を着用する。

10 公式記録用紙

- (1) 記録は、公式記録用紙を使用し、ランニングスコア用紙には記載しない。
- (2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・カード、選手氏名・背番号」を責任を持って確認し、サインをする。
- (3) 公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

11 交代地域 ☆交代地域：「3.5mラインを始点とし、センターラインから12mの範囲まで」

- (1) 各チームのボール等の用具類は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。
競技開始後は、ボールに触れることを含めてボールの使用を禁止する。
- (2) 飲料水は、飲み口の細い「個人の容器」を使用し、コップの使用を禁止する。
感染予防対策として、チーム内の回し飲みも禁止する。
- (3) 交代地域では、通信機器の使用を認める。
詳細は、JHAホームページ「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」を参照する。
- (4) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることは認める。
ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。
- (5) チーム役員は、相手チームのコートプレーヤーと異色の服装でなければならない。
トスの際にユニホームの色が確定した後に、役員の色を確認する。
- (6) チーム役員は、原則として座っていないなければならない。
ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。
- (7) 観客席等からの選手への指示や審判のジャッジに対する暴言等は厳禁とする。（無観客のため今回は削除）

12 チームタイムアウト

- (1) チームタイムアウトは、1試合で3回請求することができ、前後半にそれぞれ最高で2回まで請求することができる。また、試合の後半残り5分間は1回しか請求できず、延長戦は請求できない。
- (2) チームタイムアウト請求カード(グリーンカード)は、チーム役員だけが提出することができる。
請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア(3.5m)を越えたらグリーンカードを提出しなければならない、躊躇することは許されない。
ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合は、グリーンカードをチームに戻す。
- (3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかなければならない。請求する時のみ、持つことが許される。
- (4) グリーンカードは、TDが直接受け取ってよい。

13 休憩時間(ハーフタイム)

- (1) 前半が終了し、後半に向けてコートを移動する際には、前半使用した椅子(ベンチ)を消毒し離席する。後半の終了後にも同様に消毒を行う。なお、消毒液・雑巾などは各チームで準備し、感染予防対策を施した「新しい大会の運営」に全チームが相互協力する。
- (2) 休憩時間のコート使用は、試合を行っているチームの控え選手が練習する。コートの使用時間は「9分」とし、後半開始までの残りの1分間は、コート整備等の時間とする。
次試合チームのコート練習は、試合前のみとし、前試合ハーフタイムでのコート使用は禁止する。
※タイマーは「9分の減算表示」とし、9分のブザー合図で速やかにコートアウトする。

14 マッチオフィシャル(MO)・テクニカルデレゲート(TD)、裁定委員会

- (1) 本大会は、各試合にMO1名とTD2名の計3名を配置する。
ただし、競技第1日と第2日は、TD2名のみの配置とする。
MO及びTDは、競技委員長のもとで競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する責任者である。
- (2) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長・審判長とする。
なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が生じた場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

15 次の試合のチーム役員・選手のフロアへの入場

- 次の試合のチーム役員・選手は、前試合が終了し、両チームの役員・選手がコートアウトし、ベンチの消毒作業が終了後にフロア(交代地域)に入場する。
前試合の競技中に次試合の役員・選手が、フロアに入場し、練習をしたり、試合を観戦したりすることがあってはならない。

16 臨時トレーナー

- (1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。
トスの際には、必ずTDに申告する。席は、交代地域から離れた場所に設置する。
- (2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや応援・指示はできず、自席での対応のみとする。
選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療等を受けることができる。
- (3) TDが、試合開始前にトレーナーである資格証の提示を求める場合があるので準備しておく。

17 表彰

- 競技2日目「昭和電工武道スポーツセンター」(男子)
競技2日目「大分県立大分鶴崎高等学校」(女子)・「大分県立大分雄城台高等学校」(女子)
の各会場で、準決勝終了後に3位表彰(賞状授与)を行う。
競技最終日「昭和電工武道スポーツセンター」で、決勝戦の終了後、男女一緒に表彰を行う。

18 感染症対策

- (1) 大会期間中は、うがい・手洗い等、健康に十分配慮する。コート以外での施設内では、必ずマスクを着用する。
また、施設内だけでなく、ホテルでも消毒や検温ができる準備を各チーム・各自で行う。
- (2) 競技中(試合中)、チーム役員は、必ずマスクを着用する。ベンチで待機する選手は、攻防で常に交代する選手を除き、可能な限りマスクを着用する。
- (3) 自己管理・感染症予防のためにホテル滞在中は、各室でも個人的に感染予防に積極的に取り組む。
- (4) 大会前から練習中はもとより、生活全般で体調管理に留意する。
大会前2週間(1月21日以降)にチーム関係者が発熱した場合は、大会本部に連絡する。

19 感染症対策責任者

- (1) 感染症対策責任者は、移動や会場での感染症対策の他、チーム関係者から発熱者や体調不良者などが出た場合は、感染症対策責任者の管理下でホテル待機、医療機関、検査機関の受診などの業務に対応する。チーム事情により追加帯同ができないチームは、チーム役員が、その業務・責務を担う。
- (2) 感染症対策責任者は、大会事務局に事前申請することにより、チームに帯同し、競技会場に入館できる。
- (3) 感染症対策責任者が、観客席から指示・声援することは禁止する。また、ラッパ・ホーン・口笛などの口腔で鳴り物を使用した応援も禁止する。VTR撮影も禁止する。

20 危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

21 試合の開始と終了

開始時は、選手全員が交代地域から横1列で入場して、あいさつをする。

終了時は、コート中央に横1列で並んであいさつをし、その後、相手チームとすれちがいがながら挨拶を交わすが、タッチ・握手は行わず、相手側交代地域での役員へのあいさつは、しっかり距離をとり「礼」のみ行う。

22 観客席

- (1) 今大会は、スポーツ競技活動を通じた教育活動の一場面でもある。各チームの役員は、「競技上の注意」「会場使用上の注意」などを徹底させる。
- (2) 今大会は、「完全無観客」で開催するので、資格のない者の入館を認めない。
- (3) チーム関係者で入館入場できる最大人数を「21名まで」とする。
(役員4名・選手16名・感染症対策責任者1名)
入館入場の際には、開催(大分)県が指定する各書類(「入場者名簿」「感染防止対策チェックリスト」「健康チェックシート」など)を提出する。
- (4) 入館は「試合開始2時間前」、退館は「試合終了30分後」とする。
ただし、第1試合の入館は施設開館の関係上、試合開始1時間前の8時30分とする。
また、チーム関係者は、一斉入館・一斉退館を原則とし、自チーム以外の試合撮影を目的として、個別に入館したり、観客席に残留したりしない。
女子の競技2日目は、1日2試合をするチームがあるので、その際は指定の控え場所での残留を認める。
- (5) 競技終了後、観客席を退席(退館)する際には、チームで使用したエリアの椅子・手すり等を消毒する。なお、消毒液・雑巾などは各チームで準備し、感染予防対策を施した「新しい大会の運営」に全チームが相互協力する。

23 申込チームの欠場(辞退)の場合

- (1) 欠場(辞退)による県代表の繰り上げ出場は行わない。
- (2) 欠場(辞退)チームの大会参加記録は、「参加」として記録し、連続出場の記録は継続する。
- (3) 試合記録は、欠場(辞退)のチームの不戦敗とし、スコアは0-16とする。
- (4) 競技日程・試合開始時刻などは、原則として変更しない。

24 大会期間中に発熱者が出場合

- (1) 発熱・咳・咽頭痛などの症状を訴える役員・選手を確認した場合は、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、医療機関に電話等で相談する。
- (2) 上記(1)を訴えた役員・選手からの聴取により、対面して食事をしたり、ホテルで同部屋だったりする等の接触があった者についても、その後の諸活動を中断させ、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、医療機関に電話等で相談する。
- (3) 上記(1)(2)により、現地や帰宅後に医療機関を受診した場合、即座にPCR検査結果が出ないことが想定される。チーム内外に濃厚接触者が多く特定される可能性がある場合は、チームとして、その後の参加(競技)をどうするか大会本部と協議する。

25 大会期間中の集団飲食について

- (1) 競技会場内での昼食・間食などは、チーム内であってもソーシャルディスタンスを保ちながら、会話を控え、対面飲食を回避するなど、感染症防止対策に十分配慮する。(黙食の推奨)
- (2) 宿泊時の夕食や朝食など、チームで飲食をする場合は、施設や店舗と事前相談の上、少人数・分散で飲食するなど工夫し、多人数・長時間の飲食にならないように十分配慮する。